

劇的変貌を遂げた単元構成の例（愛媛県宇和島市立明倫小学校） （教材・・・「やまなし」「イーハトーヴの夢」）

■ 平成20年度

単元名「表現を味わい、豊かに想像しよう」

第一次	○ 「やまなし」を読み、初発の感想を書く。 ○ 初発の感想から「やまなし」の学習課題を設定する。
第二次	○ 「五月」の場面を読み、表現を味わい、場面を想像する。 ○ 「十二月」の場面を読み、表現を味わい、場面を想像する。 ○ 「五月」と「十二月」の場面を比較し、主題を考える。
第三次	○ 「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生き方や考え方をまとめる。

△ 「やまなし」の主題を考えることに重きが置かれているため、本単元で身に付けた読み方が他の作品で生かされない。

△ 「やまなし」と「イーハトーヴの夢」の関連が明確でない。

△ 作品を読む必然性が明確でなく、主体的な学習とはなりにくい。

■ 平成21年度

単元名「作家の世界を楽しもう」

第一次	○ 「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の求めた理想の世界をまとめる。
第二次	○ 賢治の理想と関連付けながら「やまなし」を読む。 ○ 並行読書で読んだ賢治の作品を総括して、賢治の世界観を話し合う。
第三次	○ 賢治以外の作家の作品を読み、作家紹介をする。

△ 「イーハトーヴの夢」を何のために読み、賢治の理想や考え方を何のためにまとめるのか、目的意識が明確でない。

△ 明確な目的、主体的な読みのためには、単元を貫く学習課題の位置づけが必要。

■ 平成22年度

単元名「作者とかかわらせながら作品を読もう」

目的意識と
単元学習の見通し

第一次	○ 「やまなし」を読んで感想を交流する。 ○ 「注文の多い料理店」を読み聞かせし、理想や考えを話し合う。 ○ 「賢治の考えを知り、作品を読む」という学習課題を設定する。
第二次	○ 「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の理想や考えを話し合う。 ○ 賢治の理想や考えをもとに、「五月」と「十二月」を対比して読む。 ○ 「やまなし」を通して賢治が読者に訴えたかったことを話し合う。
第三次	○ 並行読書の中からお気に入りの賢治の作品を紹介ポスターに表現する。

言語活動の遂行に必要な能力の育成

単元を貫く言語活動